

巻頭言

子午線の上でオレオを熱く語ろう

— 日本油化学会第57回年会・AOCS-JOCS ジョイントシンポジウム2018開催について —

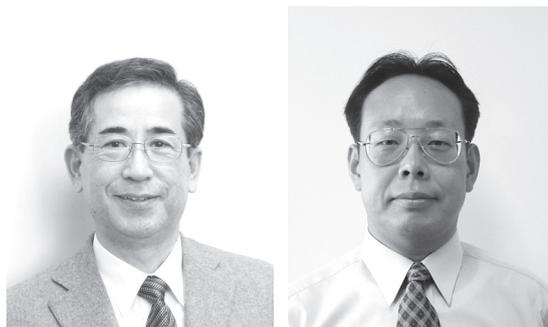
日本油化学会第57回年会実行委員長 戸谷永生／小野大助

本年9月4日(火)から6日(木)までの3日間、日本油化学会第57回年會を神戸学院大学有瀬キャンパスで開催致します。本年度は、アメリカ油化学会とのジョイントシンポジウムも併催されます。

日本油化学会は、ご存知のとおり他の学会に例をみないほど産学の連携の盛んな学会であり、企業研究側の学術的・経済的貢献は計り知れないものがあります。今年の年會の主題は「シーズとニーズのマッチング」とし、ジョイントシンポジウムでは、アメリカ油化学会からも大学・研究所研究者と企業研究者が半数ずつ発表を行います。また、例年に倣い広範かつ先駆的なご研究を進めておられる先生方による特別講演・招待講演・総説講演・教育講演も行います。会期中には神戸らしい催し物も計画していますのでご期待ください。

日本油化学会第57回年會の一般講演・ポスターの主題は、界面化学、油脂・油脂化学、食品化学、生化学・バイオテクノロジー、分析化学、有機化学・石油化学、環境科学・資源化学、洗浄・洗剤、およびその他、本学会の特色を活かし幅広い主題を対象とします。使用言語は日本語あるいは英語とします。また、ヤングフェロー賞・学生奨励賞・優秀ポスター賞の選考も行いますので、日本油化学会の将来を担う学生はもちろん多くの若手研究者の参加を大歓迎します。多くの会員の方、また会員以外の方にも奮ってご参加いただき、情報交換を通して油化学の一層の発展を目指し、交流を深めていただけたら年會実行委員会の望外の喜びです。さらに、日本油化学会発の産学連携により予想もしなかったような技術や開発品が生まれたら、どんなに素晴らしいことかと夢を膨らましています。

会場となる神戸学院大学有瀬キャンパスからは、青く



穏やかな瀬戸内海、それを跨ぐ銀色に輝く明石大橋、その先には緑豊かな淡路島を望むことができます。近くには日本標準時を示す時計台や明石城、海産品市場「魚の棚(うおんたな)」があり皆様のご興味を引くことでしょう。この機会を利用して明石の蛸や穴子、明石焼き、河豚のひれ酒もご賞味いただきたいと思います。

日本油化学会の懇親会は、毎回肩の凝らない、和気藹々とした雰囲気の中に進行します。9月5日の学会賞受賞講演終了後の夕刻に神戸学院大学の近くにあるホテルで懇親会を開催しますので、万障お繰り合わせのうえご参加ください。学生の方々には少ない費用でご参加いただけます。様々な油脂化学分野の日本人研究者、海外からの研究者と実りある接触をしていただきたいと思います。懇親会では樽酒に加え、灘の銘酒を各種揃え、明石焼きの屋台も設営する予定です。これもまたご期待ください。

本年會・日米ジョイントシンポジウムの情報は、本誌ならびにホームページに順次ご案内します。

(神戸学院大学栄養学部 教授 戸谷永生(写真左)／大阪産業技術研究所 研究管理監 小野大助(写真右))